

アートをつばさ4 -「ミュシャ展」-

2号連続で、GW特集「アートをつばさ」をお届けします。

今号では、国立新美術館（東京都港区六本木7-22-2）で開催中の「ミュシャ展」を紹介します。会期は、3月8日（水）～6月5日（月）で、私は3月末に行きました。気がついたと思いますが、前号（第221号）で紹介した「草間彌生展」と同じ美術館です。現在、1階で「草間彌生展」、2階で「ミュシャ展」が開催されています。

さて、現在のチェコの出身であるアルフォンス・ミュシャ（1860～1939）は、パリでアール・ヌーヴォーを代表するグラフィックデザイナーとして活躍し、華麗な女性を描いた装飾ポスターで大変有名です。しかし、晩年故郷に戻り超大作「スラヴ叙事詩」を描きます。その「スラヴ叙事詩」全20作が初来日しました。中には、6m×8mの作品もあります。絨毯（じゅうたん）のように巻いて、飛行機で輸送したそうです。この「ミュシャ展」も、会場内に「写真撮影可」の部屋がありました。嬉しくなりました。

さて、「アートをつばさ」を見て、GWに行ってみたいと思った方にお知らせです。GW中は、美術館は大変混みます。特に「草間彌生展」と「ミュシャ展」は大人気です。そこで、私が実践している「見学必勝法」を書いておきます。

①必ず事前にコンビニ等でチケットを購入（チケット売場が長蛇の列になっています）

②開館前、30分以上並び（国立新美術館の開館は10時。遅いと入場制限の可能性あり）

③1日で両方観る方は、先に「草間彌生展」を観る（遅いとグッズのレジも並びます）

観覧料は、「草間彌生展」「ミュシャ展」とも大人1600円、高校生800円、中学生は何と無料です。前期生いいですね。あと「音声ガイド」を借りることもお勧めします。それでは、世紀の大作「スラヴ叙事詩」の一部をご覧ください。

